

## 2023年度業務実績報告書

提出日 2024年 2月 9日

1. 職名・氏名 教授・清水聡

2. 学位 学位 学術修士、専門分野 人間科学、授与機関 大阪大学、授与年 1987年

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 心理学（2単位 毎年開講） 1・2・3・4年生
② 内容・ねらい 本講義は、初めて心理学を学ぶ学生のための基礎的、概説的な心理学である。人間のこころの働きである心理を、心理が表にあらわれた行動を通じて考える。様々な場面で見られる人間の行動を観察し、その結果得られた行動の仕組みや法則性を明らかにすることによって、人間のこころの働きを理解したい。人間および動物を対象とした心理学の諸領域について、代表的なトピックスを取り上げて概説する。適宜実習も行った。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 目に見えないこころに関する学問である心理学に初めてふれる学生を主たる対象とするため、「性格」についての講義から始め、その延長上に自分の性格を調べるにテストを実施して、自分の性格に関するレポートを作成させている。まず自分の心理に関して考える作業をさせた後に、一般の人々の心理について考えるという手順で講義を展開して、理解しやすくしている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 人間関係論（2単位 毎年開講） 1・2・3・4年生
② 内容・ねらい 本講義は、前期に行われた「心理学」の応用編である。「心理学」では主に個人の心の働きについて述べたが、本講義ではそのような心理が社会的場面でどのように表れるかについて考える。具体的には、複数の人間が近くに存在するあるいは一緒に活動している社会的場面において、人間がそのような考え行動するのかについて学ぶ。社会的場面における個人の心理的過程、対人行動、集団と個人の関係等についての代表的トピックスを取り上げて概説した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 講義に際して工夫しているのは特に以下の2点である。①講義内容は学生がこれまで身につけてきた一般常識で理解できそうに感じられるため、授業中折に触れ、一般常識よりは一步踏み込んだ内容を講述していることを強調する。②単なる知識以上の理解をしてもらうために、学期の途中で、自分の所属する集団内での人間関係についてのレポートを書かせている。これにより、普段深く意識することの少ない自分を取り巻く人間関係について考えさせるきっかけとさせている。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 導入ゼミ（1単位 毎年開講） 1年生
② 内容・ねらい 本ゼミは、大学に入学したての1年生に対して大学レベルでの勉強の仕方を教えるものである。題材として発達障害の一つである自閉症を取り上げる。自閉症児の発達について描かれたマンガを熟読するところから始めて、その中でインスパイアされた各自の興味に応じて、さらに詳しく調べてみたいところを各自決めて、調べ、皆の前でプレゼンテーションを行い、皆でディスカッションを行う。特定の題材について学問的に調べ、他人にわかりやすく説明することを経験してもらうことを目標とする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

「自閉症」という初めて耳にする対象に学生がとっつきやすいようマンガで描かれたものからスタートし、次の段階では個人で、次いでグループで役割分担をして調べ物をするというように、段階を踏んで新しい知識の領域に踏み込んでいけるよう授業を構成している。その中で、大学レベルでのものの調べ方、発表の仕方について理解を深めてもらっている。

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

教養ゼミ(1単位 毎年開講) 1年生

② 内容・ねらい

まず発達障害の基本的概念についての講義を行った後、テキストの中で担当部分を決めて、テキストの内容に自分で調べた内容を加えて、担当部分について皆の前でプレゼンテーションを行い、皆でディスカッションを行う。自閉症、ADHD等、成人する以前に発症する障害である発達障害を題材にして、その中の特定の領域について自分で文献を調べ、他人に分かりやすくプレゼンテーションをする練習を行う。その結果として、発達障害の概念が明確になり、さらに個別の発達障害についてより深く知る事を目標とする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

受講する学生の多くが初めてふれるであろう「発達障害」という領域について、基本的概念について一応説明はするが、少し踏み込んだ内容については少人数のグループ内で調べ、発表するという過程を踏んでもらい、その過程で逐次助言を加えることにより、大学レベルでのものの調べ方、発表の仕方について理解を深めてもらっている。

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

特別支援教育(2単位 毎年開講) 1年生

② 内容・ねらい

本講義は、今年度から教職課程の必修科目に指定された科目である。教員を目指す学生にたいして、特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の特性について理解し、その特性を踏まえた対応を学内のチームおよび学外機関との連携で実施することを理解できるようになることを目標とする。特別支援教育の理念、発達障害を中心とした特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の特性および特性に応じた対応法について概説し、それを行う学内の体制、学外機関との連携の実際等について事例を挙げながら講述する。適宜小グループによる事例検討も行う。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

1年生を対象とした授業であるため、単なる用語、知識の解説だけではなく、できる限り具体的な事例を挙げたり、小グループによる事例検討を行ったりしながら、特別支援教育の対象となる幼児児童生徒および彼らへの支援の実際のイメージを構築してもらえるよう工夫している。

(2)その他の教育活動

内容

大阪大学大学院連合小児発達学研究所「小児発達療育学」2コマ担当(H4年12月)

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【0本】
② 学術論文（査読あり）	【0本】
③ その他論文（査読なし）	【0本】
④ 学会発表等	【0件】
⑤ その他の公表実績	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

## 5. 地域・社会貢献活動

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井大学子どもこのころの発達研究センター・客員教授(H12.12～現在に至る) 福井県心身障害児就学指導委員会(委員長)(H17.5～現在に至る) 福井県発達障害児者支援センター連絡協議会委員(副委員長)(H18.4～現在に至る) 福井市保育所入所児発達相談専門委員会委員(H19.4～現在に至る.R3.4から委員長) 福井市特別支援教育専門委員会(委員長)(R1.4～現在に至る) 福井市社会福祉審議会障がい福祉専門分科会(委員長)(R1.4～現在に至る) 福井市障がい者差別解消地域協議会委員(委員長)(R1.4～現在に至る) 小浜市発達障がい者支援専門委員(R2.4～現在に至る) 福井県立福井市東特別支援学校評価委員(R3.4～現在に至る) 福井県発達障がい者福井型就労プロジェクト会議座長(R3.4～現在に至る)
② 国・地方公共団体等の調査受託等 福井県子ども療育センターでの自閉症児の療育に関する外来相談担当(H8.4～現在に至る) 福井市保育カウンセラー(H22.4～現在に至る) 公益財団法人松原病院での心理外来(R4.4～現在に至る)
③ (公益性の強い)NPO・NGO 法人への参加 NPO 法人はるもにあ理事長(発達障害児者支援のためのNPO 法人)(H23.4～現在に至る)
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での)企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥ 公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講
⑦その他 1. 発達障害関連の役職 福井アスペの会(高機能自閉症児者支援団体)代表 福井県自閉症協会代表 JDD ネット(日本発達障害者ネットワーク)福井代表 2. 発達障害、特別支援教育関連講演・助言等 1) 福井市委託 発達障がい支援者人材育成研修(初級編・上級編)講師「発達障がいに関する相談」(2023年5月、6月) 2) 福井県特別支援教育センター主管 令和元年度子どもとそだちの相談会(2回)(2023年8月、9月) 3) 福井県社会福祉協議会主管 令和5年度保育士スキルアップ研修 主任保育士研修「気がかりな子への理解と発達の援助①-気がかりな子の理解と支援-」(2024年1月) 4) 第61回福井県保育研究大会第2分科会助言者(2023年6月) 5) 仁愛大学大学院講義『地域支援臨床心理学特論Ⅱ』(公認心理師をめざす大学院生対象の「発達障害支援の実際と課題」)(2024年11月) 6) 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構福井支部主管令和5年度職業生活相談支援員資格認定研修講師「障害者の心理・特性」(2023年11月) 7) 高校通級自主勉強会助言者(2024年1月、武生高校定時制) 8) 福井県発達障がい児者支援センター主管 福井県発達障がい児者サポーター養成研修講師「青年期以降の発達障がい者への支援について」(2024年2月)

6. 大学運営への参画

(1)補職
学術教養センター長
(2)委員会・チーム活動
教育研究審議会委員 教育研究委員会委員 入試実施本部員 部局長会議委員 学術教養センター教員評価委員
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など